



2号墳の埋葬施設は箱式石棺で、くびれ部の東側にあり



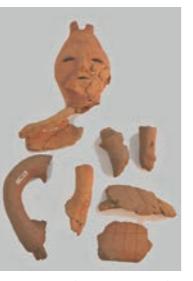
2号墳(全長24m)



旧石器の製作跡
からは剥片等が
約80点出土



朝顔形、円筒埴輪(3号墳出土)



人物埴輪(3号墳出土)



号墳(全長26m)



古墳時代の土器が出土している穴には、底面が平らで円筒形の形をしたものがあります。底面付近から少量の炭化材も出土。覆土から出土する土器が6世紀前半頃のものが多く、同時に竪穴建物跡に近い位置にあるので竪穴建物跡とともに何かに使われたものと見られています。



ANSWER The answer is 1000. The first two digits of the number 1000 are 10.



11号墳(中央:全長22m)、13号墳
(右:14m)

前方後円墳形の2・3・8・11号墳は、どの古墳も前方部の溝の深さが後円部の深さよりも浅い特徴を持っています。そのため、円墳に見える12号墳は前方部の溝が浅かったため、後世に削平によって後方部の失われた前方後円墳と推定しました。13号墳の東側周溝内側斜面下からは周溝内埋葬施設と見られる土坑が見つかっています。



北地圖

千草B古墳群の姿に迫る

高道祖地区のしもつま桜塚工業団地拡張の造成工事に伴い、平成27年9月から下妻市教育委員会が発掘調査を行ってきた「千草B古墳群」。旧石器時代の石器製作跡1か所、縄文時代の落とし穴6基、古墳時代の古墳14基のほか、埴輪や土器、ガラス小玉などが出土し、平成28年1月28日に調査結果のまとめを発表しました。

今回は、調査結果から遺構や遺物の概要と、1月30日（土）に開催した一般向けの現地説明会について紹介します。

今回の発掘調査は、南北2地区の遺跡で面積約1万3000平方メートル。古墳は、帆立貝形前方後円墳5基を含む14基が確認され、大規模なものは全長26メートルに及びます。このほか、6基が円墳で、3基の形状は不明でした。が、古墳の埋葬施設のうち箱式石棺5基などが見つかりました。

北地区の古墳2基周辺からは多くの埴輪が発掘され、円筒埴輪や人物、馬、鹿などをかたどった象形埴輪も見つかり、頭部に4つの突起がある珍しい人物埴輪もありました。

調査に協力した毛野考古学研

究所茨城支所では「小規模ながらまとまとった古墳群の存在が確認され、一帯に古墳群が広がっていたことが分かる」と説明しています。

旧石器時代の石器製作跡からは、剥片や石核(残核)、スクレイパー(削器)が出土。石器を制作する際の工具として使用したハンマーと推測されるホルンフエルス、赤褐色チャート、石英斑岩の石材も見つかることから、約2万年前に残された「狩猟した動物の解体具の製作跡」と考えられています。

穴が6基発掘されました。最大で長さ4メートル、幅2メートル、深さ2メートルになるものや、袋状に掘り込んで落ちた動物が簡単に逃げられないよう工夫したものが見つかりました。

古墳時代の堅穴建物跡2か所からは、かまど跡が良好な状態で発見され、土師器の杯、壺、甕などが出土しています。

市教委では「人物埴輪と形象埴輪を、どのような組み合わせで埋めたのか調査を進めれば、この時代を考察する手掛かりになる」とみています。

